

Title	理財学会例会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.4 (1910. 10) ,p.498(130)- 500(132)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	三田学会記事
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101000-0130">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101000-0130</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の勢で遂に甚しい武断を施したものである

と、實に人の肺腑に入り得可き同情ある論斷なり  
挿畫と云ひ、挿圖と云ひ、系圖と云ひ、索引と  
云ひ、一として本書の價值を高め便利を増さざる  
はなく、行文もすべて言文一致體を用ゐりて極  
めて通讀に適せり。余は邦文の西洋史として進ん  
で讀者にレコメンドし得可き好著述を得たるを  
喜ぶものなり。用紙裝釘又佳、但し巻帙龐然たれ  
ば寧ろ之を二冊となすを以て便利なりとするの讀  
者もあらん。余はこの種の著述に於て數ば固有名  
詞の讀方の杜撰なるを發見するの常なるが、本書  
はこの點に於て殆ど欠點なし。尤も鎖細の事實に  
於ては訂正を要するものなきにあらず、一〇三二  
頁に千九百年の英國總選舉後のことを叙して「ソ  
ールスベリ」は外務大臣の任をバルフォアに讓  
り「云々あれどバルフォアのランズダウンの誤な  
ること云々迄もなし。又一〇八六頁より八七頁に  
涉りて、那威獨立のことを叙し、一九〇六年に瑞  
典は那威の獨立を承認せるが如く記すれどは五

年の誤にして、而して又「那威は丁抹王フレデリ  
キ八世の第二子カロロを迎へて王とした」とあれ  
ど、フレデリキ八世の父王クリスチアン九世崩後  
即位せるは一九〇六年一月二十九日のことなれば  
正確に云へば、今の丁抹王フレデリキ八世の第二  
子云々と記さざる可からず。鎖末のことなれと思  
ひ寄れる儘附記す。(田中萃一郎)

### 三田學會記事

#### 理財學會例會

十月八日理財學會第五十一回例會を圖書館樓上大廣間に於て開  
く、出席者氣賀堀切兩教授外四十餘名、午後七時より講演を開始  
す。法學博士小林丑三郎氏幹事の紹介を以て壇上に立たれ金融上  
の疑問に就てと題して大要左の如き講演を試みり。  
金融緩漫を告ぐること久しく金利低落したれどもこの低落の趨  
勢は果して永久的にして歐米先進國と同一の方向に向ひたるも  
のとして我が金融界の革新と見るべきや否や、若し然りとすれ  
ば事業興らざるべからざる筈なるにその實際に然らざるは何故  
なるか。抑々一國の金利の低落が永久的なるがためには金融の  
基礎確立せざるべからず、我金融の基礎果して確立せりや。金融

的と動的とあり、保險會社の積立金郵便貯金等長期事業に放下  
せらるゝものは前者に屬し各銀行に於て割引荷爲替等短期事業  
に投資せらるゝものは後者に屬す、我國郵便貯金高は戦後一億  
三四千萬圓に達したれども諸外國のそれと比較するときは殆ど  
言ふに足らず保險會社の積立金とて同様にして必要ある場合  
には短期浮動資金を補ふべき長期資金は却て短期資金に助けら  
るゝの實狀なり我國の金融は兌換券に依頼すること多くして金  
融の中心點は中央銀行にあれども歐米諸國に於ては國民の貯蓄  
多く零碎なる資金先づ下級銀行に集り之を以て事業を營むを以  
て金融の中心點は下級銀行にあり、パニック起るも忽ち平穩に  
歸し緩に過ぎず急に過ることなく常に低利を保てるは國際間相  
通するにも依るべしと雖も固定長期の貯蓄の多きこそ其の根本  
にはあらざるか。然らば固定貯蓄少き我國に於て目下金利の低  
落せるは何に原因するか曰く、(一)外債募集の結果非永久的な  
る資金が用途なくして或部分に停滯し(二)貿易上の輸入超過少  
く從て外國への支拂額多からざる上に外資の輸入あり(三)加ふ  
るに内國債の償還ありて金融市場に貨幣の供給過多となりたる  
による。かく金利低落せるにも係らず事業起らざるは何故なる  
か、内國に停滯せる資金は外國より借り入れたるもの、殘金な  
るを以て海外に於ける金融市場の景況によりては何時償還さる  
やも計り難く之を長期の貸付に放下するは最も危険なるのみ  
ならず剩へ大會社の破綻するを以て之を銀行より見れば政府公  
債の取扱大藏省券の貸附借更を營み一割以上の利益を受くる

を以て敢て危険を冒すの要なきを以てなり。要するにこの金利の  
低落を以て健全にして一般的のものとなすは速断にはあらざる  
か、金融の基礎固くして恐慌に對する準備成れる程ならば鬼に  
角も何等の基礎の上に立たざる外國よりの借金の過剰が停滯し  
て而も事業に投下せられざるに於ては一朝返却の必要に迫られ  
むか之が返済に充てらるべき貨物の生産なくして如何にして之  
に應ぜむとするか、これ國民經濟上の一危険なりとなさざるを  
得ずと信ず  
小林博士の壇を下るや三井合名會社理事福井菊三郎氏代て米國  
の實業なる演題の下に一場の講話ありたり大要次の如し  
米國は發見以來四百年、西佛蘭人等の殖民失敗の後を承けて最  
後に現はれたる英人は成功し以て面積三百萬方里總貿易二十億  
にして年々二三億の輸超過を見る今日の大米國の基をなせり  
英人は最初農業に望を囑せし土地の不可なるため工業に着手  
せしが此發達は本國と經濟上利益の衝突を來し遂に獨立戰爭の  
導火線となりしも獨立以來實業繁々として進み人間と資本とを  
要すること愈々急となれり  
抑々米國の今日の繁榮を來せしものは保護貿易なりと同時に今  
日米國を苦しめつゝあるも保護貿易なり、保護によりて獎勵せ  
られたる企業は外資を輸入するに當つて公債證書によらずして  
外人を直接企業に参加せしめ外資と外知とを併せ輸入したるを  
以て世界に稀なる發達を遂げたり、然るに外人は米人の狂熱す  
る時には事業界より退き資金は米國金融市場を去るを以て並に

パニック起る、これ最近百八十年間約十年毎にその發生を見た  
る所以なり、保護は今日の繁榮を來したれども今は却てその餘  
毒に苦しみつゝあり、即ち各種の事業に於て數多の同業者を生  
じ相互競争に勞れてトラストを形成し一般物價の騰貴甚しく今  
ヤトラスト制禦は最大の問題たり、インターステート、コンマ  
ースコミティ又はアンティ、トラスト、ロー等の手段に訴ふ  
るも他の一方に於て歩一步保護税率を高むるを以て何等の効力  
もなし、然らば保護税を低下又は撤廢せば如何と云ふに之は實  
際に於て不可能なり、米國に於て世界商業戦に於ける二大武器  
を有す棉花製鐵業、即ち之なりトラストの餘波として物價騰貴  
せるも生産費は物價の二十分に過ぎざるものあり、これ實に  
世界と競争するを得しむる武器なり、かく廉價に生産し得る所  
以は教育普及し職工に至る迄優秀なる技術を有するを以て賃銀  
額は多くとも生産費は却て廉なるによる。米人は生命保険によ  
りて死後の計をなし置き然る上に充分に快樂を享くるを以て常  
に元氣盛に而して日常ジテイメンの養成に心懸く、これ亦その  
強をなすの一因たり

かくて氏は最後に生絲製造を以て我國の産業上の武器なりとな  
し之が發達助長を心懸けざるべからずとてその講演を結ばれたり  
講演終りて堀切教授の謝辭あり引き續き茶菓の間一場の談話を試  
みられたり、曰く、さきに新國定税率の發表せらるゝや世人多く  
は之を見るに單に一片の理論を以てし輕々に論じ去りしも予は單  
に經濟論のみならずして一段高き國家政策論の見地よりして時

事新報紙上に於て大にその不當なるを論じたりしに果して反對は  
同盟國なる英國より起り來れり、當時二三の新聞雜誌を始め外務  
當局者も從來の國定税率(現に實際行はるゝ協定税率にあらず)よ  
りも低率なりとて反駁を加へたりしに今や反對の聲は意外の邊に  
影響を及ぼさむとするを見て當局の狼狽一方ならず、さればとて  
自由貿易國たる英國とは協定の餘地なきを以て我輩の觀察する所  
によれば來る十二月の議會には必ず新國定税率の改正案提出せら  
るべしとかくて當夜出席の氣賀堀切兩教授を中心として談論を  
よりそれへと移り清與滄きて夜の更くるを知らず、時鐘に驚きて  
仰げば正に十二時、窓外雨滴點々たり、即ち起つて場を去る(まゆ)

# 三田學會雜誌 第四卷第五號

## 論 說

### 社會主義の現状及び將來

田中萃一郎

個人主義思想の缺乏甚しきを以て、時弊の第一に推さんとするは、余輩の宿論に  
して、中産社會に對する、國家と社會との壓迫、年と共に益々甚しく、その極余輩を驅  
てプロレテリートの群に投せしめざる限り、余輩は利害の上よりも將た意見の  
上よりも、社會主義に賛成するものにあらず。彼の口に社會主義を蛇蝎視しつゝ、  
衷心その學說を信奉するものゝ如きは、余輩の與みせざる所なり。然れども、兩國  
橋下の水のテームス河上に通ずるは、林子平を俟て而して後に知らざる所、倫敦の  
郵信二旬ならずして東京に達する今日、檢夫爾の鎖國論に心醉して、思想上に於て

社會主義の現状及び將來